授業方法について，独自に工夫している点と，アンケート結果を受けての改善点【教育科学系】
〇専攻科目（1） 2021年度の後期は1月半ばから新型コロナウイルス感染症が愛知県において流行した。実習を伴う授業科目においては、授業内容に応じてより効果的な学びとなるように遠隔授業と対面授業を行うようにした。アンケート結果は回答者が少ないものの、授業内容について肯定的な回答がされていた。授業方法に関しては、「遠隔と対面が使い分けられていてよかった」という意見があったほか、授業時に授業方法について聴取した内容からも、概ね理解が得られたと思う。 〇専攻科目（2） 本授業は3人の教員でそれぞれの専門分野を生かして担当した。対面授業を基本としていたが、1月半ばからの新型コロナウイルス感染症の流行によって、授業内容によって遠隔授業を取り入れることとした。アンケート結果からは、「養護教諭として具体的にどうするとよいのかを考えることができた」など肯定的な回答がされていた。一方で、「あえて対面にこだわらなくてもよいと思う」という回答があったことから、遠隔授業と対面授業のハイブリッドで行う場合にその意図を学生に伝えたり、感染状況をみて早い段階から対応したりする必要があると感じた。 〇実習科目においては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、CO2チェッカーで測定し常時換気をするとともに、座席配置を広くとるなどの配慮をしながら実施した。 〇E科目 本授業は、授業担当者間で情報共有しながら進める必要があるが、まなびネットの登録等がスムーズにできていなかったことから、学生やアンケート結果からも「まなびネットが見れなかった」などの声があった。その一方で、コロナ禍ということで来学する機会が減っている中でも、学生同士でSNSやZoomで連絡や相談をするなど情報共有のスキルが着実に身に付いていることを感じた。教員側のスキルの向上が必要と思われた。
履修者との対話型の授業を心掛けている。一方的な講義ではなかなか受講生の理解の度合いをリアルタイムで確認することができないことから、できるだけ受講生の生活感覚や思考様式をつかんでそれと符合させて説明を加えることで効果的な理解を促したいと考えている。 アンケート結果から、受講生も主体的な学びを努めて行おうとしている気配が感じられるが、何分回答者の数が少ないため全体の傾向をつかむことは難しい。引き続き対話型の授業を展開していきたい。
対面授業の中で、講義とグループワークを組み合わせて授業を行い、学生が、講義で学んだことをもとにグループで話し合いをして理解を深められるように心掛けた。 回答者の割合が少ないため、アンケート結果を踏まえた改善点について考えることは難しいが、より話し合いが進むトピックを考えていくことが重要だと考えている。
遠隔授業と対面授業でのグループワークを組み合わせて、学生が各自で調べ考えてきたことを、他の学生と共有して理解を深められるように心がけた。 動画が長いという指摘については改善の必要性を感じている。
1年生科目と演習科目であったため、概ね良好な結果であったと判断できる。ただし、1年生科目では、ディベートやインタビュー調査および分析を中心に授業を設計したため、「文献やインターネットでの調査を通し、新たな思考を展開する」という項目でややネガティブな回答が目立った。今後は、この点にもう少し注意し、授業を設計していきたい。

アンケートでいただいたのは専攻科目2回分の授業でした。こちらは、オムニバス形式であり、自分の担当回の2回は遠隔で行いました。アンケート結果のうち、遠隔授業についてのコメントは何もありません。オムニバスの授業に対する評価は、自分以外の評価が含まれているので、的確な解釈ができません。ですので、アンケート結果に基づき、何か改善点といわれると、ものすごく困ります。
これを踏まえ、独自に工夫していることのみ記します。コロナ禍に入り、遠隔授業の在り方を探究し続けてきました。視覚や聴覚の障害学生が在籍しておりますので、彼らに対する情報保障をしながら、かつ、対面授業と同等、あるいは、それ以上に効果的な授業が提供できるよう、他大学の教員と情報交換をとりながら、授業のアクセシビリティ、ワークショップの導入、課題設定等を試行錯誤してきました。
特に、本科目では、重複障害児の臨床像について考える事例検討、実態を把握するための行動観察と、それに関連した推定視力・サイズ・距離の計算問題、最後に、現場で起こっている実際の事例を提示し、具体的な改善案の検討等を導入し、各学生がじっくり自分のペースで思考できるようにしています。
学びの習得については、学びネットを活用したオンライン試験を導入しており、学生たちからは、対面と変わらない、むしろ、事例検討については、自分のペースでゆっくりの考えられてよい等の高評価をいただいています。この点、アンケートには反映されておらず、残念ですが・・・。

・遠隔授業を中心にしながら、三回の対面授業を実施する予定であったが、新型コロナウィルス対策のため二回とした。遠隔授業では、授業内容を簡潔に整理した資料、および、考察する視点を示した資料を掲載したり、適宜、視聴覚教材を取り入れたり、ディスカッションのためのフォーラムを取り入れたりした。また、課題の負担感を軽減するように配慮した。対面授業では、視聴覚教材を活用したり、パワーポイントによる解説等を取り入れたり、適宜、グループでのディスカッションも取り入れた。
・アンケートに回答した学生は少ないが、アンケート結果では、参考文献・資料などを参照して授業の課題に積極的に取り組み、それを発展させた受講生が多いと言える。今後、対面式授業と遠隔授業のバランスを考えながら、それぞれの特質を活かし、さらに、授業を創意工夫し改善したい。

・アンケートに回答した学生は少ないが、アンケート結果では、参考文献・資料などを参照して授業の課題に積極的に取り組み、それを発展させた受講生が多いとは言えない。自由回答記述を見ると、対面授業での活発なディスカッション、話し合いを望んでいた受講生が多かったようである。しかし、対面授業ではコロナ禍の中、感染防止のため積極的にディスカッションすることを躊躇し抑制したというのが事実である。そのことを説明する必要があったと反省している。今後、この反省を踏まえ対面式授業と遠隔授業のバランスを考えなら、それぞれの特質を活かし、さらに、授業を創意工夫し改善したい。

とくにない。必要と思うことを実施するのみ。アンケート結果はおおむね好評だったのでこのまま進めていく。

できるだけ関心があったり求めている情報に近い形で提供する。実践例も大事だが、原則や理論も伝える。複数教員による担当授業の場合、その場でルール変更等をやり取りするのではなく。丁寧に事前打ち合わせを行って、当日の混乱で学生を不安にさせないように留意したい。

すべての教材を、授業の方式に関わらず、まなびネットで提供しています。また、なるべく動画等を活用するようにしています。アンケートの回答数が少なかったので、なるべく多くの受講生が答えていただけるようにしたいです。

令和3年度後期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、対面講義が実施しにくい状況であったが、1年生講義を中心に、大学での学びが充実できるよう対面やハイブリッド型の講義を実施した。オンライン講義の場合は、長時間の視聴にならないよう休憩の時間を挟む工夫を行った。また、対面講義ではソーシャル・ディスタンスを保ちながらも討議ができるよう椅子の配置にも注意を払った。アンケート結果からは、学生のさらなる興味を引き出すことが課題としてあがった。今後、自学自習用のテキスト（参考書）などの紹介を増やしていきたい。

・学生たちが、教育現場に出たときに役立つように、私自身の経験や見聞した内容等をわかりやすく説明することに心がけた。・学生自身が自己理解をすることが大切であると考え、クレペリン検査を実施し、結果をもとにして分析し、将来に役立つようにした。・学生自らが探究することを、今後多く取り入れたい。・学生が抱く考えや思いを受け止め、応える展開を講じたい。・非常勤講師として、講義内容を模索する中での後期でした。私自身、さらに研鑽したい。

講義の授業では反転授業をしている。コロナ以前から教室でノートチェックを行っているが、遠隔時にはノートをアップロードする必要があるので煩雑だったかもしれない。スマホのカメラで撮ったものをシームレスにアップできるようになると良いと思う。

大学の方に相談しながら、またアンケートなどにより学生の声も聞きながら授業方法などを決めたりしています。連絡方法は、メールと連絡とりやすいラインも使っています。できる限り早く対応しています。遠隔授業の場合、パワーポイントを使ったスライドショーにしています。課題は、学生さんが書いて回答するものと録音するものにして、その課題のフィードバックを積極的にやって、遠隔授業であっても、学生さんはポルトガル語を聞く、話す、読む、書くことが出来たと思います。対面授業の場合、プロジェクターやカードなどを使ったり、会話を練習したりしています。授業のメソッドは、独自で考えた「パズル」という文章の作り方を使っています。このメソッドでは、ポルトガル語の複雑な文法が面白いパズルのように見られると思います。後期は、新しく独自で考えた「パズルカード」を使い始めて、ポルトガル語の文法がさらに分かりやすくなったと思います。ただし、どうしてもポルトガル語は難しいという事実があって、アンケートを通じてポルトガル語を身に付いていない学生がいると分かりました。いくら私が頑張ってもポルトガル語の難しさが変わらないと思いますが、前期でもっと分かりやすい授業を考えたいと思います。これからも精一杯努力して、将来学生さんが先生になったときに役立つポルトガル語を教えていきたいと思います。また、学生さんが、自分で問題点を深く考え、新たな思考を展開できるような授業教材などを作りたいと思います。

15回の授業が全て遠隔（オンデマンド方式）であったので、若干不安でしたが、次のような工夫をして講義を行いました。・具合的な実践事例を多く取り上げながら、理論説明等を行った。・講義の最終課題を「単元指導計画の作成」というハードルの高い内容に設定していたため、15回の授業においてスモールステップで課題に迫ることができるように工夫した。（第4回の授業で「自分が実践したい探究課題を設定する」、第7回「実践する場合、学習指導の三つの視点から取り入れたい工夫を考える」、第9回で「単元目標と評価規準を考える」、第11回「外部との連携を図った学習活動を考える」など。）・学生から毎回提出される課題レポートには、なるべくフィードバックコメントを送るようにした。特に「単元指導計画の作成」に関わる課題レポートには、個々の内容についての助言や応援を伝えた。学生のアンケート集計結果やコメントを読ませていただくと、回答した学生は、毎時間の授業に意欲的に向き合い、主体的に課題に取り組んだことがうかがわれます。また、コメントには「実践的な内容だった」「単元指導計画を授業の中で少しずつ作っていったので、最後の課題が作りやすかった」などが見られ安心しました。フィードバックコメントに感謝する旨のコメントもあり、苦労した甲斐があったと思いました。今後は、授業で使用する資料についてさらにアップデートし、工夫・改善を図りたいと考えています。

【独自に工夫している点】これまで講義の授業では、①テキストの適切な使用、②補助プリントの作成、③新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、④小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。遠隔授業（オンデマンド型）では昨年度作成した授業動画を大幅に作り直すことになった。動画の作成に際しては、見やすいスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示（関連づけ）に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。【アンケート結果を受けての改善点】アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。授業動画（スライドショー）については、おおむねよい評価をえることができたようである。オンデマンド型授業では、受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかったが、「まなびネット」の「フォーラム」をある程度活用することができた。受講生の側の「慣れ」も要因になったと思われる。課題（小レポート）の頻度は、授業3回につき1回とした。このレポート提示のタイミングや提出期間までの時間的な余裕については高評価をえることができた。課題に対するフィードバックにも心がけてきたが、受講生によっては不十分に感じている回答もあった。この点が、今後の最大の課題だと考えている。

授業方法で独自に工夫している点は、ゼミについてはなるべく自分で関心あるテーマについて自分で追及する姿勢を大事にすること、またお互いのテーマに関心を持ち、自分の意見を率直に述べてもらうことです。またオンデマンドの講義については、課題をやっても見てもらっているか不安だなどの感想を聞いたことがあったので、課題の結果について必ず所見を録音して次の回にあげておくようにしました。 またアンケートを受けて、オンデマンドの講義については、録音の音が不明瞭である点などの感想が複数あったので、そうしたミスについてはなるべく注意して資料を作成したいと思います。またゼミでは、自分独自の取り組みへと発展するように助言をしていきたいと思います。

【工夫している点】・ある回の学生の意見記述を踏まえ、次回以降にコメントを返している。そのことで、間接的ではあるが、私なりに、対話的な授業に最大限努めている。・学生の意見記述に現れた学生の考え方や思いを踏まえた上で、学生に伝えたい授業内容を吟味して伝えている。そのことで、学生の経験や思いと授業内容が少しでも結びつくように努めている。・指定した教科書の中身をできるだけ多く授業内容として扱うようにしている。というのは、大学授業では、教科書を指定する割にあまり使用しないというものもあると聞いていて、そういう授業が学生の不満の一つになっていると聞いているからである。・スライドの中身はできるだけ丁寧に書くようにしている。準備には膨大な時間がかかるが、学生が体調的な要因で授業を聞き漏らす場面があった場合でも、後からそれを読んでも、授業内容をおおむね理解できるようにするためである。・スライドには積極的にアニメーションを付けるようにしている。準備には膨大な時間がかかるが、その方が、学生に伝えたい授業内容を分かりやすく強調しながら伝えることができるからである。【アンケート結果を受けての改善点】・今回のアンケート結果に限っては、おおむね肯定的な受けとめであったため、改めて改善点を考察するには至らなかった。・ただし、私自身が新型コロナウイルスに係る基礎疾患をもっていること、受講者が3桁と大変に多いことがあって、対話的な授業ができていないのが気がかりである。少しでも導入できれば、もう少し効果が高い授業になるとは思うのだか、二の足を踏んでしまっている。来年度以降、若干でも対話的な授業が可能かどうか、新型コロナウイルス感染状況も踏まえつつ、検討してみたいとは思っている。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン授業が開始された当時から、YouTubeを使った動画によるオンデマンド授業を行っている。動画撮影では、プロのカメラマンにも協力して頂いて、分かり易く、また動画を長時間見ていてもあきない仕掛けを盛り込むなどした授業の動画は、この3年間のアンケート結果によると比較的好評であったように思われる。しかし、今回、初めて「アドバイスをもらえない」「友達の作品を見れない」とアンケートにあった。今後は、対面授業に戻っていくことから、この点は改善していけるものと思われる。

相互のまなびが深まるように小グループのアクティブディベートを必ず取り入れています。

●令和3年度後期の学内における授業科目は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に留意しながら対面授業で実施した。学生アンケートの結果から、自分で問題点を深く考えた者は100%、新たな思考を展開した者は83%であった。今後も手指消毒、マスク着用、体調管理など感染防止に十分配慮して、できる限り対面授業による授業を実施したい。●令和3年度後期の学外における実習科目は、実習施設の受け入れ状況に応じて臨地実習と学内演習で実施した。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、実習の日程を変更して実施した。学生アンケートの期間には、専攻科目の実習を実施していません。なお、今後も臨地実習が実施できない場合は、Teams等を利用したリモート講義を実習施設に依頼して指導いただけるようにしたい。

対象人数80人で、回答人数は24人のみで、ちょっと少ないと思います。問1（授業で指示された課題・参考文献・資料などを自ら参照した上で，自分で問題点を深く考えた）は20人が「強く・ややそう思う」と回答しました、満足です。問2（授業を受けた上で，自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し，新たな思考を展開した）は17人が「強く・ややそう思う」と回答しましたので、今度は改善したいと思います。

対面＋オンデマンド＋リアルタイムというTeamsを活用した「ハイブリッド型」の授業を行い、可能な限り柔軟に受講対応できるようにしています。遠隔授業も2年目になり、受講生もハイブリッド型に抵抗なく応じてくれています。授業方法と内容について、95%以上の受講生の方が「満足またはほぼ満足」と感じていてくれていることに感謝しています。今後もエネルギーはかかりますが、再度、授業内容を精査して、丁寧な講義と柔軟な授業形態を心がけていきたく考えています。

体験学習を重視し、体験の際に学生と十分にコミュニケーションを行うようにしている。総じて評価は高かったので、今後も学生の反応を見ながら授業に取り組みたい。

学生が提出したレポート内容をもとにアクティブ・ラーニングに生かして学びを深めている

現場・当事者・事実から得られる情報を源泉として学びを深め，広げてもらいたいと考えるので，フィールドワークと学生間の対話を重視した。

・1時限につき一つの課題について、他者の考えも知ってほしいとの思いで、出来るだけ多くのコメントを取り上げたが、読む量が多すぎると感じた学生もいたため、適量になるよう、改善したい。・対面授業には対面授業の、遠隔授業には遠隔授業の良さがある。対面授業をふやしつつも、必要な遠隔授業を実施しするようにしたい。

〇独自の工夫・遠隔授業となったため、できる限り学生とのやりとりが進められるよう応答性のある授業に心がけた。毎回授業の振り返りをフィードバックで実施し、その内容を次回の授業で報告・紹介し次へ生かせるようにしたり、質問に応えたりした。各自で実践できる内容を設け、実践した感想・反省等を、フィードバックし、その内容を次回の授業で報告・紹介をして、共有できるようにした。・パワーポイントのビデオ機能を利用し、教員の声だけでなく字幕でも授業内容が理解できるように配慮した。〇アンケート結果からの改善点・課題の提出期限が、3日ほどしかなく、もう少し長いとしっかり取り組めるとの意見があったため、R4年度からは、余裕をもって課題に取り組めるよう、期限を1週間ほどに、伸ばそうと考えている。

学生同士が対話する機会を授業内に必ず設けている。対話を通して学びを深めることだけでなく、他者の考えを知ることや自分自身の考えに向き合うこともできると考えるためである。

語学の授業について、言語のリズムや音に慣れるために歌を多く取り入れた点は学生からも好印象だったようで、今後も続けていきたい。また、対面授業ではできるだけペアワークをたくさん取り入れたが、Covid-19の感染拡大を受けて後半を遠隔に切り替えたことで、ペアワークができなくなってしまったことは学生にとっても残念であることがアンケートで分かったので、今後はできるだけ対面でペアワークを入れて授業を進めていきたいと思う。

学生・院生が主体的に探究課題をもって自己学習を勧め、授業における発表や討論に展開できるよう、ファシリテートしています。

学生からのコメントについて、質問事項や興味深い内容のものを取り上げ、共有している。アンケート結果でもこのことを好意的に受け止めている学生が居たので、学生同士の意見交流の場として今後も継続したい。

講義だけでなくグループワークを取り入れて，主体的に取り組むように工夫した。今後も学生が主体的に取り組むように改善していきたい。

50人規模の授業においては、全体を二つのクラスに分け、対面―オンデマンドを交互に実施する形態を取った。対面でしかできない内容とオンデマンドでも可能な内容とを分けることで、教室キャパシティ上の問題の解消と受講生にとって意義ある授業形態とが両立するよう工夫してみた。 オンデマンド講義においては、前時の授業感想のいくつかをピックアップし、それに補足や応答する動画を作成した。その後、本時の授業動画へと進む形をとった。設問1・2ともに、「強くそう思う」「ややそう思う」が全体の8割に達しているので、各回の主旨については概ね理解を図ることができたと言える。発展的な学習課題や論点の提示などの工夫を心がけたい。

講義で眠たくならないよう、パワポを穴埋め形式にしている。また、教員が一方的に話すことをせず、学生との相互作用を大切にする。

遠隔授業であっても、参加型の授業になるよう課題で授業だけでなく、自ら考えたり、調査・検索しないと完成できないような内容にするよう工夫している。養護教諭のための適切なテキストが現在発刊されていないことから、看護教育のためのテキストを使用していることから使用頻度が少なくなっている。改善点としては、令和4年度は対面授業も実施することから、授業プリントを配付して学生のテキストの購入は任意にすることを検討する。

実習科目については、感染予防に留意して、手洗いを実施し、手袋・フェイスマスクの使用を適宜行った。近づいて行わざるを得ない実技項目では、シミュレータを用いて、実施するようにした。シミュレータが1台のため、実習時間内にできない場合には空きコマに練習しても良い旨を伝えていたが、十分活用されなかった。2021年度は仮教室であったが、2022年度は改修が終わったため、学生が実技練習を行えると思われる。
対面授業ではグループワークをなるべく多く取り入れるようにしています。アンケートは回答者が少なく、改善点の指摘がありませんでした。
疾患の症状を文字だけではなく映像で見せることでリアルに感じられるようにしている。
オンデマンド（まなびネット）を利用した授業では、アップロードされている資料が消えないので、やむをえず欠席した時などに助かるという声があった。対面の授業が再開されてもオンデマンドの長所を取り入れながら授業を行っていきたい。
・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。・授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。・現在、teams、まなびネットともにファイルの共有、課題の提出といった活用をしているが、アンケート機能やチャットの活用など、授業のなかで学生とのリアルタイムな意見交換ができればと考えている。（チャレンジしてみたい。）
まなびネット配信を主としていたが、事例検討を多用した。各学生の回答内容を一覧にして共有できるようにした。結果をどう判断するかについては、回答人数が少なすぎるためなんとも言えない。
・授業場面においてICTの活用場面を意図的に設け（ロイロノート等）、学生らが実際の学校場面においてICTを活用した授業のイメージがもてるようにしている。・実際の学校場面における指導VTRを使った演習等を取り入れることで、より現場に即した学びができるようにしている。また、附属特別支援学校や地域の特別支援学校の協力を得て、実際の授業を参観し、模擬授業検討会などを実施している。
いくつかあるが、アンケート結果を受けて、とくに必要と思われる点を挙げる。対面とオンデマンドとの混合の場合、オンデマンドでの自宅学習の様子を課題提出の結果のみに頼るのではなく、対面の回で、可能な限り、参加者からの反応を確認するように心がけている。
本コースの学生には公務員志望者が多いことから、地方自治体職員等のゲストスピーカーを招いて実際の地方自治行政や政策に関する講演を聞く回を設けている。授業の中でゲストスピーカーの自治体の特色について事前に調べる課題を出し、また質問したい事項等をあらかじめ考えさせるように工夫した。学生の回答によればこのことが良い刺激になったと思われることから、引き続き、ゲストを招く回に関連づけた授業を心掛けたい。
工夫した点・保育現場での活用を想定した実践的な授業内容および課題設定を意識した・グループ活動による学び合いを意図した・ポートフォリオの作成を通した授業内容の振り返りを促した。 アンケートを受けて・回答者数が少なく一概に言えないが、学生の主体的な学びを促せたことは良かったと思う・より良い配布資料や参考文献の提示を目指したい
遠隔では、出来なかった仲間との意見交換や事例検討を取り入れ、保育のエピソードを基に、まずは学生自身が考え、仲間と共有することで考えを深められるようにする。

＜独自に工夫していること＞・動画教材だけではなく、講義内容を文章として提示し、学生のペースで視覚的に学ぶことができるようにしていること。・わかりにくい部分等を補う補助教材や、もっと学びを広げたい学生のために発展的な学習や教材を提示していること。・全員共通ではなく、課題を複数設定し、学生の興味・関心、時間的なゆとり、経済状況に応じて選択できるようにしていること。＜アンケートを受けての改善点＞・遠隔授業では、学生同士のワークやディスカッションの場を設定しにくいこともあり、アンケートでも改善点の一つとしてあげられていました。今年度は、対面授業ではディスカッション等を多く取り入れた授業構成にし、遠隔授業の方はこれまでの蓄積や改善点をふまえて、より学びやすい教材をつくっていきたいと考える。

再課程認定後の新科目もあり、コロナ対応も加味しながら、日々授業を創作しています。その中で重視している点は、学生の主体的な学びを進める方法です。合わせて、幼児教育の実践においても、幼児の主体的な活動をいかに推進するかが問われています。従って、授業においては、上級学年では世界的なこの流れを実感できるように情報提供をし、各自、どのように保育を実践していけばよいかを考え、模擬的に実践してみる授業形態を模索しています。下級学年では幼児教育の基礎知識の習得を促しながら、できるだけ受講者1人1人が事前に準備・調べた内容を授業時に発言できる場面を作るようにしています。コロナ禍で対面授業が少なく、下級学年ではクラスとしての仲間意識や交流が薄く、学び合いの場が減っていると感じたので、できるだけ対面授業で皆で交流できるような授業形態で実施するようにしました。今回の授業アンケートでは回答者数が少なかったものの、一定の評価を得られたと思います。引き続き上記の方針で工夫していきたいと考えます。

授業のなかでポイントとなるキーワードをいくつか学生に伝えるとともに，学生が興味関心をもつ題材を取り上げ，自ら主体的に調べ，学びを深めたいと考える機会を設けた。担当授業において大方の受講者が，学びを深める機会となっていた。今後，さらに授業内で日常生活でどのように適用可能かについても具体的な例を取り上げていきたい。

ロープレを取り入れて、学生さんに実際に模擬支援をしてもらいました。また、そのロープレについては1　自分で工夫して準備したことを発表2　ロープレ実施3　フィードバック（学生）4　フィードバック（講師）5　ロープレ実施6　フィードバックを受けて改善した点を発表7　フィードバック（学生）8　フィードバック（講師）ということで、少人数だからこそできたことではありますが、講義を聞くという一方的な授業ではなく、アクティブラーニングが実施できたと考えます。

【工夫している点】〇　教育現場に携わっていた者として、基本的な理論とともに現場で起きている様々なことや過去の実践を授業内で取り上げ、学生の方々の会得した知識が実際の場面においても有効なものとなるよう思考を磨き解説を加えることによって実践力を高めることに主眼を置いています。【改善点】〇　昨年度は、コロナ禍であることに留意し、対面式授業においてもグループディスカッションを控えめにしていましたが、今年度は状況に応じて極力取り組んでいきたいと考えています。

MS科目では、コミュニケーションのあり方についてワークを行うため、必ずアウェアネスリポートを提出してもらい、考察を深める機会を作るようにしている。また、ワークを行う際には必ず多様な体験を肯定すること、ワークの目的を明示し実施後には理論的説明を加えることで、体験が知的に整理できるよう工夫している。

まずL科目については、概ね好評であったため、このレベルを維持していきたい。 次にF科目については、授業内容そのものよりも、授業後に自ら問題点を考え、それに基づいて行動した、という問いへの回答の中に、「どちらともいえない」「あまりそう思わない」といった不評回答が若干混じっていた。これは授業時間以外での課題の設定に不備があるためと考えられるので、今後は授業内容に即した上手な課外活動の指示を工夫したいと思う。

Teamsを用いた遠隔授業において双方向性を心掛けていますが、特に学生からの発信で操作の不慣れによるパフォーマンス不全がよく発生し、それにどう対処するかが課題です。

映像や動画などを用いて、見て分かりやすいようにしているつもりである。アンケート結果としては、比較的良好に受け止めてもらえているようであるが、教材についてまた検討して行きたい。

普段から、単に聴講するだけでなく問題意識や課題意識を持って受講できるように学生の反応を見ながら授業をしたり、課題を提示してグループで話し合ったりするような授業を展開することに努めている。特に障害児を想定した模擬授業やコミュニケーション手段の実践など学生が主体的に学ぶことが中心の授業においては、アンケート結果でも「自ら深く考えること」や「新たな思考の展開をした」という回答が高くなっている。今後も引き続き、講義中心の授業であっても1コマの授業の中で、「課題や問題を考える」機会を設定して自ら学ぶことができるように工夫していきたい。専攻の学生の意識に大きな差はないが、全学対象のL科目においては、アンケート結果から特別支援教育を学ぶ意識の差が大きいことが感じられる。オンデマンドゆえに「意図が伝わらない」ことや、多人数へのフィードバックの困難さを実感しているが、その中でも工夫しながら特別支援教育を学ぶ意義を周知していきたい。

・一昨年度のアンケート結果を受けて，授業コンテンツの公開スケジュールを配慮し，その成果が見られた。・指示がわかりにくいという意見があった。複数週にわたる課題のため，毎週指示が更新されるこが一因と思われる。

1．授業方法について，独自に工夫されている点：授業では，毎回プレゼンテーションソフトやGoogle formsなどのICTを活用して学生の内発的動機づけを高める講義を心がけている。主として，授業の前半は理論的解説（含む映像教材を用いた学習）を行い，後半は「ロールプレイ」や「実習」を随時取り入れ，学生自身が主体的に授業に参加できるよう工夫している。さらに，授業の最後には毎回「リアクションシート」を配布し，次回の授業の冒頭にプレゼンテーションソフトを使い学生の質問に回答することで，双方向の授業を心がけている。2．アンケート結果を受けての改善点：引き続き学内FD，学外FDを活用し，新たな授業実践を積極的に取り組む努力を続けていきたい。

学生が、多様な視点で考えることが出来るように、実践に基づく経験を具体的に伝えたり、多様な背景のある方にゲスト講師として来ていただくなどの工夫をしている。

・音声付きの学習資料を毎回提示し、学生に少しでもわかりやすいようにしようと心がけた。・理論と実践を結びつけて思考できるように、具体的授業事例等をできるだけ多く紹介した。実際の授業のイメージを高めながら学習に取り組めるといいと思う。・学生とのコミュニケーションをどのようにとればいいか、考えさせられる。提出レポートへのフィードバックは必ず行った。「課題に対するフィードバックがよかった」という感想を書いてくれた学生もいたのでよかったと感じる。しかし、レポートへのフィードバックでは1対1対応になってしまい、学生同士の交流が不足したと反省する。遠隔授業で学生同士の意見交換をさせるにはどのような方法があるのか、他の先生方からの情報提供もほしいと思った。

既習の内容を踏まえたうえで、実践的な学びになるよう、講義の他に検査道具を使用した授業を行っている。8割の回答者が、自ら考え、新たな思考を展開させることができたと答えている。今後も理論と実践の融合を意識した授業を計画したい。

様々な自作問題や、答えやすいように穴埋め問題などを作り、学習しやすいように工夫した教材を提供した。自分で学んでいくことができる自己学習力を持っている学生と、親切丁寧に解説しなければ不満を抱く学生とがいるようである、毎回課題を完遂している学生もいれば、あまり課題に取り組んでいない学生もいる。各受講者が授業内容に求める深さレベルが違っているなどにより、学習者の学ぶ姿勢の差が授業への評価の違いとなって表れていた。また、受講者の専攻によっても、同じ教材を提供しているにもかかわらず、感じ方が違っていた。また、継時的にみると、専攻もその年度年度によって学生は違うため、同じ教材でも授業への感じ方が違うようである。万人に向くような教材とは何かを考える必要があるが、多様な教材を提供することが幅広く満足を得られることへとつながるかもしれない。記述式回答は、どれほど一般性があるかわかりにくいが、回答率を高めることも一般性を増す方法であると思われた。学習の仕方自体を解説する必要があるかもしれない。

遠隔授業では学生同士の学び合いが難しいため、毎回のリアクションペーパーに書いてくれた感想や質問を全体でシェアし、他の学生の考えや意見を知る機会を作りました。今後も遠隔で行うか対面で行うかについては、基本的には感染状況を見ながらの判断になると思いますが、引き続き学生さんの意見も取り入れていきたいと思います。

オンデマンド方式で、かつ聴覚障害学生が受講していたので、オンデマンド動画をMicrosoft Streamに投稿した上で、字幕作成機能を利用してキャプションをつけた。これは、聴覚障害学生のみならず、健聴の学生にとっても理解しやすいものとなったと考えられる。 アンケート結果を受けて、オンデマンド方式は功罪相半ばするものだと感じた。多くの質問に対する対応には悩んだ。質問は直接メールで送ってもらうほうが、ハードルが高くなる分、精選され、対応が容易になるのではないかと思う。

できる限り、具体的な事象を取り上げて説明し、興味・関心を高めるよう心がけている。問1，2とも「強くそう思う」「やや強くそう思う」の合計が70%以上ではあるが、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計も14～15%あるので、もう少し丁寧な説明を心がけたい。
穴埋め式のレジュメを配布し、関連動画・資料を収録したパワーポイントスライドを用いて説明している。授業後の課題提出時に質問が出された場合、次回授業時に解答した。アンケートの回答で遠隔授業時に使用した教材の音質に対する改善要望があったため、今後、遠隔授業を行う場合は音質の改善を図りたい。
○　工夫している点・1　フィールドワークのワークショップを行う上で、その意図を学生に十分理解させて、学びの実感のあるものとする。2　ワークショップの機会に、E-learningで学んでいる内容以外の、学校図書館教育をめぐる最新の動向や考え方などを紹介する。○　アンケート結果を受けて・「フィールドワークで、かなり密な状況になるときがあり不安になった」という回答があった。　→今後も感染状況を把握し、教務企画課等と相談の上、適切な対応をとっていく。
記述回答がほとんどなかったが、おおむね良い評価であったのは、現場経験の事例とリンクして話ができている部分だと考える。遠隔授業については、著作権上DVDなどが使えなかったので、対面では活用していき、学生の学びが深まるようにしていきたい。